

●生活・人生・生命

人は社会的動物です。無論、これほどの大社会を造らなくても生きてはいけるでしょうが、私たちは、森に戻って熊と共に暮らすことはもはやできません(ルソー『人間不平等起源論』)。しかも、それでいて、私たちの志向・利害は往々対立します。紛争も生じます。それを、可能な限り、暴力ではなく言語によって防止し解決するための工夫、それが法です。そして政治です(しかも「暴力装置」さえ、法と政治なしでは成り立たないのです)。

法学政治学研究科・法学部では、この法と政治とを研究し、教育しています。つまり、立法・行政・司法の全局面について、多角的に研究し、法学的智恵と政治学的識見を深め、それらを身に付けた人々を輩出しようとしています。それは、人間の「命の全て」、即ち生活と人生と生命とに関わる、重大で真剣な営為です。

環境や電子商取引や生命技術に関する適正なルールがなければ、何が起きるかわからない。それにかかわる経済的發展も衰滅してしまふ。人類の将来にも影響する。そのような危機感さえ懐かれてるように、「文明」の最先端にも、これは関わっています。

しかも、法学的智恵と政治学的識見は、法律家・政治家・官僚だけに有用なものではありません。およそ組織を運営し、経営し指導していくには必須です。それが、法学・政治学を学んだ人が、世界中で、経済を含むあらゆる分野の指導的役割を果たしている理由でしょう。我々は、今後、そのような無くてはならない人々を供給する役割を果たしていこうと決意しています。

●理論・歴史・実務

法と政治の性質からして、現代日本の事実・現実のみを見ては、よく解りません。現行法の規定も、時には古代ローマに由来します。明治時代に西洋の法を継受しつつ制

教育・研究の現場から

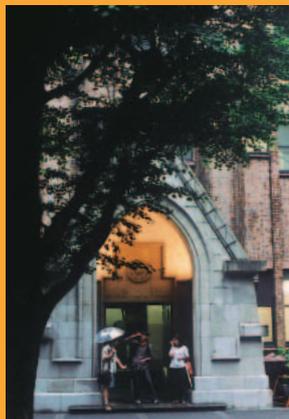
大学院法学政治学研究科・法学部 Graduate School of Law and Politics and Faculty of Law

渡辺 浩 大学院法学政治学研究科長・法学部長

Home Page : <http://www.j.u-tokyo.ac.jp/>

人が大規模な社会を構成して生きていく以上、法と政治は欠かせません。
それは、我々の生活・人生・生命にかかわります。

法学的智恵と政治学的識見をさらに深めていくこと、それらを身に付けた人々を輩出すること——日本と世界の未来のために、それを目指しています。



定されて、今も有効な重要な法律もありません。人類の膨大な歴史の深みの上に、今の法体系があり、政治と行政が成立しているのです。それ故、法学・政治学は、実務的であるためにも、歴史的であることを要します。現実的であるためにも、思想的・哲学的、そして理論的であることを要します。日本を理解するためにも、外国を理解することが必須です。そして、それが人生の全局面にかかわる以上、学際的であることが、その本質です。

●研究・教育・改革

法学政治学研究科・法学部では、そのような研究をしています。世界屈指の法学政治学の専門図書館が中核となってそれを支えています。さらに、明治新聞雑誌文庫と原資料部とを擁する近代日本法政史料センターは、世界的にも巨大な意味を持つ日本近代史探究のための宝庫です。外国法文献センターは、不断に変貌する外国の法令集・判例集等を収集しています。比較法政国際センターは、外国との研究・教育上の交流を支援しています。そしてビジネスローセンター(本年四月発足)は、現在の激動しつつある経済活動に関わる法律の研究と教育を支援しようとしています(十月には、弁護士や企業法務部の方々のための「プロフェッショナル・セミナー」を主催しました)。

法学部の教育は、講義と演習の二本柱によつていきます。講義で体系的に理論と知識を学び、同時に、演習で文献読解・報告発表・討論等の能力を身に付けていく、そういう仕組みです。修士課程では、研究者養成コースの他に専修コースを設け、修士号を得た上で復職もしくは就職する人々のための教育を行っています。さらに、現在、二〇〇四年の法科大学院の設置を目指して、真剣な検討を続けていくところです。法律家の質を高めるためです。仮にそれが実現するならば、学部にも関連する大きな改革となると予想されます。



寺尾美子教授(中央)の演習風景

●二世紀の情報科学技術基盤の
充実と新展開へ

コンピュータ、インターネット、マルチメディア、知能機械、これらによる新しい情報環境は今後の社会や産業、個人生活を支える重要な情報科学技術です。二〇世紀前半までの文明が主として機械により人間の物理的な力や速度を増幅させたのに対し、情報の科学技術は人間のコミュニケーションや知的能力を大幅に増幅させることができます。情報科学技術は生まれてから未だ五〇年位にしかありませんが、更なる今後の発展は目覚ましいことが期待されます。また、これまでの情報科学技術の主な対象が情報を扱う専門家向けであったのに対し、今後はあらゆる人が使い、あらゆる人がその恩恵に浴することを主目的としたものになってくると思われまます。

二世紀を迎えた二〇〇一年四月に新設された大学院情報理工学系研究科は、そのような社会を支えリードしていく専門家を育てると共に、世界に今後の新しい情報科学技術や考え方を提案していく活動の中核となるべく企画されたものです。同時に、目まぐるしく変化する情報ビジネスに携わっている企業の人々と密接な連携を持ち、時代の求める科学技術への観点をもちつつ、社会へ今後の方向性を示すという役割も視野にあります。教育・研究面では、情報科学技術の基盤充実と新機軸の展開という、深さと広がりのある両面での充実と拡大を図っています。これにより旧来の学問領域の枠を越えて新しい考え方や技術を産み出し、産業を先導すると共に、社会の脳神経系ともいべき高度で知的な情報システムを構成する手法を与えて、これからの情報社会の更なる発展を切り開いていこうとしています。

●社会に開かれた研究拠点

東京大学の理工系の情報科学技術に関連した組織は、歴史的経緯から理学系研究科と工学系研究科に分散して存在していました

大学院情報理工学系研究科

Graduate School of Information Science and Technology

田中英彦 大学院情報理工学系研究科長

Home Page : <http://www.i.u-tokyo.ac.jp/>



筋肉のCG



2足ヒューマノイド
ロボット



並列
コンピュータ

「情報」は21世紀における社会と知の中軸となる基盤です。

2001年に新設の情報理工学系研究科は、この情報理工学に関する英知を結集して先進的大学院教育・研究の拠点となり、国際的にも大きく翼を広げようとしています。

が、前述の要請に応えるため、これを改組、再編し、二〇〇一年に大学院情報理工学系研究科が設置されました。研究科は表に示す特徴を持つ5専攻から構成されています。併せて、産業界との連携強化を図る「戦略的IT連携客員講座」、「バイオ情報処理連携客員講座」も設置されています。5専攻がそれぞれの特色を発揮する機能的役割分担と、その効果的集約によるスケールメリットを活かし、新たな展開に対する柔軟性を実現しています。

私達は、社会に対して常にオープンでありたいと思っております。すなわち、広く社会や産業界の多くの人々をパートナーとして、学習、研究、問題提供、情報交換、共同作業など、種々の形で関係を持ち、共に新たな領域を切り拓いていこうと考えております。そのような交流の一つの場として、定期的なシンポジウムの開催をしておりますし、また今後幾つかの協力形態を作り上げようとしています。

グローバル化しつつある今日の社会では、当然我々も国際的な意味での価値の創出が問われております。特に急展開している情報の世界では、国際的リーダーシップを発揮することが重要であり、これまでも研究発表を始めとして国際的活動を活発に行ってきたことが、なお一層の努力が必要と考えています。

大学院生はまず第一にコンピュータ、情報操作、情報伝達に関する基本原理と関連分野の技術を身に付けることとなります。この場合、専攻の枠を超えて、情報に関する基礎と応用の充実した幅広い授業を選択できることは、大きなメリットでありましょう。そして、情報の新領域の開拓、新技術、新システムの研究開発に主体的に携わることを通じて、グローバル化した世界でリーダーシップを発揮するように育っていくことを期待しております。

このように、情報理工学系研究科は情報科学技術に関する英知を結集し、二世紀に向けた情報理工学に関する先進的大学院教育・研究拠点となるものです。

学生の皆さん、社会の皆さん、私達とともに情報の新しい世界を切り開いてゆこうではありませんか。

専攻の構成と分野	
コンピュータ科学専攻	計算の基礎理論、計算システム/プログラミングとコンピュータアーキテクチャを中心とした計算システム分野の教育・研究を行い、次世代情報科学技術のコンピュータ的側面の基礎を主な研究対象とする。
数理情報学専攻	幅広い先端的科学技術分野における種々の現象を数理情報学的視点から捉え、環境の変化や技術革新に適応可能な数理情報モデルの構築と解析を行って、その情報構造を解明し、諸分野での応用を可能とする教育・研究を特徴とする。
システム情報学専攻	森羅万象を認識と行動のシステム科学の視点から捕らえ、情報学と物理学を駆使して現象の解析を行って、新しい原理や方法論あるいは機構やシステムを創出し、諸分野での応用を可能とする教育・研究を特徴とする。
電子情報学専攻	電子技術に立脚したコンピュータ・情報処理技術（ハードウェアとソフトウェア）、情報ネットワーク技術、通信システム技術、信号処理技術、メディア技術を総合的に扱い、その高度化と新技術の創出を可能にする教育・研究を特徴とする。
知能機械情報学専攻	実世界における形態、運動、構造、機能に関する情報学を統合し、自然や人間と調和する知的な機械情報システムを創造的に構築することを目的とした教育・研究を特徴とする。
(連携講座)	戦略型IT連携、バイオ情報処理連携